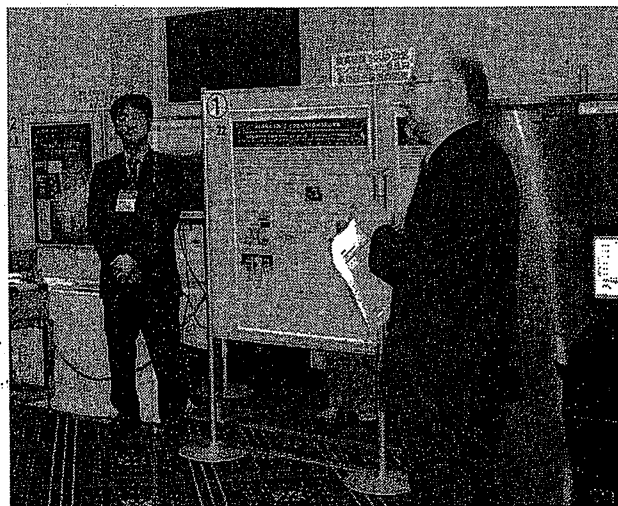


超伝導科学技術賞を受賞

食品内の金属異物
検査装置を開発

豊橋技科大の田中教授ら

豊橋技術科学大学工 三郎教授と、アドバン
コロジウム工学系の田中 スフードテック(豊橋)



市西幸町)の鈴木周一
社長が15日、未踏科学
技術協会の第34回超伝
導科学技術研究会シン
ポジウムで第12回「超
伝導科学技術賞」を共

同受賞した。
受賞テーマは「高温
超伝導SQUIDを用
いた食品内金属異物検
査装置の開発」。
田中教授らは、食品

アドバンスフードテックと共同開発した金属異物検査装置を説明する田中教授(右)今年2月、豊橋市内で開かれた2008都市エリアフォーラムで

.....
などの中に含まれる金属異物を、超高度磁気センサーで検出できる装置を共同開発。検査対象物の形状(水分・塩分・温度など)や包装材の影響を受けずに、100マイクロメートルの磁性金属異物を確実に検出できる装置で、「食の安全」が叫ばれる中、同社で実用化された装置がすでに、北海道のチーズ製品の生産ラインなどで活用されている。
未踏科学技術協会は、未踏分野の科学技

術の振興と進歩発展を目的に活動。現在、文科省研究振興局基盤研究課材料開発推進室管轄の公益法人と位置づけられ、国の物質・材料に関する基礎研究政策の実施や、産学官連携の研究を推進。ナノ粒子、エコマテリアル、

超伝導科学技術など、5先端分野の特定研究会をもつ。(杉浦文夫)